20210124レムナント教会1部

**わざわいの正体(創世記6:1-8)**

　この世にいる誰しもが「幸せになりたい」「幸せな人生を送りたい」という願いを持って自分なりに頑張っています。また、世界中の国々が「この地球が平和なところになってほしい」という願いを持ってそれなりに頑張っています。しかし、残念ながらその願いとは裏腹に、人の力ではどうしようもできない、人の工夫では止めることができないわざわいが襲いかかってくることが歴史であり現実です。世の中ではそのわざわいに対して、科学的な分析を通して科学的に対応しようとしています。それは当然なことであり、また必要なことでもあります。しかし、それには限界があるということを私たちは目の当たりにしているし、それが今までのわざわいの歴史を通して学んだことでもあります。今私たちはコロナのパンデミックの中を過ごしています。世界中が大変な思いをしていることは言うまでもありません。しかし、今日の聖書を見ますと、いまのパンデミックとは比べ物にならないほどのわざわいが世界を襲ったことが紹介されています。大洪水によって人類のすべてが滅ぼされるわざわいに見舞われました。このノアの時代の大洪水のわざわいを通して、「わざわいの正体は一体何なのか」、そのわざわいを通して、「私たちクリスチャンはどのようなメッセージを握って祈るべきなのか」、また「どのような人生の方向を定めるべきなのか」などを確認していきたいと思います。

　1.まず第一に人間の手に止められない、どうしようもないこのわざわいというものは、聖書に書いてあるとおり、地上に人の悪が増大したということを知らせるサインです。

悪が増大したということはどういう意味なのでしょうか。洪水の災害に備えて川の橋の柱の部分に危険水位の表示があります。そこを超えると「これはもう危ないんだな」と分かって、それに対応していくためです。それと同じように、わざわいはこの世に悪が危険の度を超えていることを知らせるサインです。この世は元々神を離れていて(エペソ2:1)、この世の流れに従い(エペソ2:2)神はいないとか要らないと主張し、違う神々を拝みつつ神様を侮辱する所であり、結局滅びに向かって運命にとらわれて生きています(エペソ2:3)。

しかし、神様はこのような世を愛し世を救おうとされるお方です。つまりこの世は神に愛されるところでもあります。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」。神はこの滅びるしかない神に敵対するこの世を不思議な愛、アガペーの愛をもって愛しておられます。それゆえ罪を犯して神様から離れて滅びるしかない、滅びることが当然なこの世に向かって、最初から福音を与えられました。希望を与えられ、生きる道を与えられたのです。創世記3：15、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み砕くとあります。特に神様はこの世を愛して、この世を滅びの運命から救い出そうとして教会を建てて、先に救われた神の民、神の子どもたち、信者を通して、その神の愛のわざをなそうと定められました。

悪が増大しているということは、このような滅びるしかない世の流れ、世の風習、世の罪の勢いが教会にまで入ってきて、教会を食い尽してしまったということです。結果、この世に神の愛、神の救いを宣べ伝えて、その役割を全うすべき教会と信者が宗教化してしまい、世俗化してしまいます。それが危険水位まで到達して、もうこれ以上はダメだと神様ご自身が思われた時刻表、タイミングで現れるものがわざわいというものです。この世の悪が、世の流れ、世の風習が極限な状態になり、危険水位に到達したことを知らせるサインなのです。

言葉を裏返しますと、神様はこの世をあきらめることはありませんというサインでもあります。神様はもうこれ以上、放っておいてはいけないと判断されたので、最初からの救いの約束、神の不思議な愛をまっとうすることを決してあきらめることはないというサインがわざわいです。そういうわけで、皆が大変な思いをして、どうしたらいいのかと嘆くわざわいですが、それを神様が許されることを覚えましょう。

それから、なぜそのように悪が増大し、教会、信者でさえその世の流れに流されて食い尽くされるようになるのでしょうか。今日の聖書にも神の子たちが人の子の美しさに惚れて結婚し、契約を捨てて福音から離れたことが書いてありますが、そこまで悪が増大してしたその裏にこのすべてを仕掛けて悪を増大させ、教会、信者でさえ食い尽くしてしまうように働きかけていた者がいます。その正体がネフィリムです。ネフィリムというのは、ネファールという上から地上に落ちてきたという動詞が名詞になったものです。上から落ちてきた者つまり、悪魔、サタンのことを意味します。結局わざわいの正体は、その裏で世の流れを握って、操り、教会も宗教化、世俗化させてしまうネフィリムというものがわざわいの正体です。しかし、神様はそのわざわいを許されることによって、神の契約、神の救いの約束、この世に対する神の愛をあきらめることはないと知らせておられることを覚えましょう。

2.そしてわざわいは人間のどのような工夫や努力がまったく役に立たない、人間の絶望的な実像を知らせるメッセージなのです。

それがわざわいというものです。この世には人間が誇りに思っているいろいろなものがあります。そして、それはこの世を生きるためにある程度必要なものに間違いありません。人は、努力は必ず報われるという信念のもとで頑張っています。しかし、その努力がわざわいの中では無用なもの、全く通じないものです。お金があればできないことがほとんどないほどお金はすごい力を持ち、便利なものに間違いありません。生活を豊かにさせるものです。しかし、わざわいの前では、大洪水の中ではそのお金は全く力になりません。全く助けになりません。科学はすごい発展を遂げています。科学の力で本当に輝かしい業績をたくさん残しました。今も科学はどんどん進歩の一途をたどっています。しかし、その科学の力でもわざわいの前では無力なのです。何の役にも立ちません。また、自分の良心に従って人生を頑張ろうという人も少なくありません。それも望ましいことでしょうが、残念なことにわざわいの前では良心どうのこうのが全く通じません。世の中を治めるためには、社会を維持するためには法律が求められます。法律の役割は大切なものです。しかし、どのようなルールや法律があってもわざわいの前では全く機能しません。それがわざわいというものです。平常時と非常事態の切り替えが出来ないと政治が混乱することと同じようなことです。人は常識に頼って、常識を基準にする場合があります。しかし、わざわいの前ではその常識が全く通用しません。それから、多くの人が宗教を求め、何かの超越の力を求めて頼りにしようとしますが、しかし、残念ながらわざわいの力の前では、宗教であれどのようなマジックであれ全く通用しません。他に何があるのでしょうか。何が大事なのでしょうか。何を自慢し誇りに思い、何に頼っているのでしょうか。わざわいの前で、それれが全く通じないことに気づくようになります。わざわい、たとえばノアの時代の大洪水の前ではすべてが無力化されてしまい、わざわいに食い尽くされてしまいます。結局、人間のすべての自慢、誇り、人間の希望、頼りなどが粉々に砕かれます。人間が可能性があると信じて頼っていたすべてが粉々に砕かれていくものがわざわいです。これがメッセージです。

それを通して私たちはこの世、自分自身、人間という存在がどれほど悪に満ちているものなのか、どれほど希望のない絶望的な存在なのか、それに気づくようになります。ローマ3：9-18、パウロはすべての聖書と歴史をまとめてこのように結論付けています。「では、どうなのでしょう。私たちは他の者にまさっているのでしょうか。決してそうではありません。私たちは前に、ユダヤ人もギリシヤ人も、すべての人が罪の下にあると責めたのです。それは、次のように書いてあるとおりです。義人はいない。ひとりもいない。悟りのある人はいない。神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行う人はいない。ひとりもいない。」「彼らののどは、開いた墓であり、彼らはその舌で欺く。」「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」「彼らの足は血を流すのに速く、彼らの道には破壊と悲惨がある。また、彼らは平和の道を知らない。」「彼らの目の前には、神に対する恐れがない」と言われる絶望的な存在、絶望的な状態だということを親切に知らせるメッセージがわざわいなのです。それに耳を傾けないといけません。これがわざわいの正体なのです。これが明らかになるように。本気で認めないといけないように。そして、これは特別な人の話ではありません。ローマ3：23、「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」。わざわいというものは大変なのです。大変な思いをするしかありません。しかし、クリスチャンの私たちは、単に「大変だ。大変だ。いつ終わるのだろうか」ということではなくて、そのわざわいの正体が何かを正しく理解して、そのわざわいから神様のメッセージを読み取らないといけません。

3.最後にわざわいというものは、人間が生きる道、人間の希望の唯一の一本しかない道、キリスト・イエスへと導かれる神様の導きなのです。

ノアの時代はそれが箱舟として人間に与えられ提供されました。今まで誇りに思い、自慢に思っていた、頼りにしていたものは何の答えにもなりません。だから箱舟のに入りなさい。それがわざわいのお招きです。ヨハネ14：6、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」。使徒4：12、世界中でイエスの御名のほかに、私たち人間が救われる名としてどのような名も与えられていません。それでそのイエス・キリストが、わざわいに遭ってさまよい苦しんでいる人類に向かって招いておられます。マタイ11：28「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい」。わざわいは、箱舟に入りなさいというイエスの招きの声でもあります。それがわざわいというものなのです。

　そして、その箱舟を通して神様は、すべてを新しく始められました。それを再創造と言います。わざわいは唯一の道、キリスト・イエスの方に導かれる神の配慮であり、Onlyイエスを固めるための神様の導きであり、神様が許されたことです。そのようにして、つまりイエス・キリストに会わせて今までの過去、今までのすべてを振り払い、新しく始められるためです。神様は教会を通して、信者を通して、神様の目的である滅びるしかないこの世を助け生かす契約の仕事、契約の働きをあきらめることなく突き進んでいかれます。新しく造り変えられたイエス・キリストを信じている者を通して。

箱舟であるイエス・キリストに招かれた人たちはまず自分が新しくなります。Ⅱコリント5：17、古いものは過ぎ去り、すべてが新しくなった。新しくなった結果、今までは何を食べるか何を着るか、何を飲むか、肉の欲求に従って人生を生きてきましたが、それを振り払い、神の国と神の義を求める新しい人生を始めるために神様は箱舟の方に招かれます。神様はわざわいを許してでも、滅びの運命の海から助けられて、いのちの箱舟の中に招き導き入れられて、今までの何を食べるか飲むかという人生を終え、神の国と神の義を求める人生を始められます。「いつだったらこの国が再興できるのでしょうか」という心配など全部捨てて、それを気にする人生は終えて、聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまで、わたしの証人となります。御座の祝福の中で、神の国の民としてこの世を歩いてもらうために箱舟の中に、イエス・キリストの中に招かれます。あなたがたは世の光ですと言われる世の光として、エペソ1：23、キリストのからだなる教会として、キリストの代わりとしていきることそれが新しい創造なのです。その新しい人生を歩んでもらうための道はイエスのほかにはありません。イエスの中に新しいいのちがあり、新しい創造の祝福があります。その祝福を備えて神様が許されるものをわざわいと言います。ときには個人的にそのわざわいに遭う場合もあります。世界的なパンデミックになる場合もあります。しかし、メッセージは同じです。

わざわいはこの世が危険水位に到達しているのだと知らせる神様のサインであり、つまり、神様はこの世をあきらめることがない、神様はこの世を愛していらっしゃるというサインなのです。そして、そのわざわいを通して、人間がどれほど絶望的な状態なのかということを明確にするメッセージなのです。ですから、わざわいというものは、Onlyイエスの信仰を通して新しい創造の祝福に預かり、新しい創造の勝利の道を歩んでもらうための神様の導き、配慮なのだということを覚えましょう。世界中が騒いでいるからと、私たちも一緒に騒いでいてはいけません。私たちは神のメッセージを聞かないといけません。

　そして、本当にそのわざわいの正体が何か分かったとすれば、私たちはこのように聖書に基づいて告白するようになるでしょう。へブル12：1-2「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました」。

つまり、わざわいの本当の正体、その意味が分かったならば、心から悔い改めましょう。

悔い改めるというのは、道徳的な罪を改める意味ではありません。何も知らずに世の様々なこと、肉の欲求などにとらわれ、心配してり欲に捕らわれて振り回されていた自分を悔い改めることです。

わざわいの正体が本当であれば、Onlyイエスを回復します。Only伝道、Only祈りを回復し、イエスを見上げることが悔い改めです。それこそがわざわいの答えです。

そうなると、私たちひとりひとりがキリスト・イエスにあって御座の祝福をいただいていることに気づき、その御座の祝福の中に入って再創造の祝福を味わい、その道を歩んでいくようになります。237国の霊的ネットワークの見張り人、霊的ないやしの医者、霊的な大使として残りの生涯を堂々と祈りとともに信仰を持って歩んでいくでしょう。

このようなことが改められ、それが明確になり、御座の祝福を味わい、伝道者の道を歩んでもらうために神様はわざわいを許されるとことを覚えましよう。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。神様はこの世を愛しておられ、そして、その愛はネフィリムのどのような邪魔があろうが、わざわいを通してでもあきらめることのない主の御名をほめたたえます。わざわいを通してでも人間の実態に目覚めさせ、Onlyイエス、イエスの招きの愛の御声に反応することができるように導いていらっしゃる主の御名をほめたたえます。私たちクリスチャンはすでにそのイエスのいのちの中にいるものなので、このわざわいの時代、わざわいの正体を正しく理解して、Onlyイエスを固め、改めて再創造の御座の祝福を存分に味わうことができるように、どうか聖霊様がみことばをもってひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。